学習指導案形式例【R６ 各教科】（群馬県教育委員会）

○ ○ 科 学 習 指 導 案

単元名（題材名）「○○○○○○○○○○○○○」〔学指要領：例（　）、ア、(ｱ)〕

令和○年○月○日（○）　第○校時　○○○○教室
○○立○○○学校　○年○組　指導者　○○　○○

Ⅰ　単元（題材）の構想

1　単元（題材）の目標及び児童（生徒）の実態

	目　標	児童（生徒）の実態
知識及び技能	・ ・	・ ・
思考力、表現		
学びに向、人間性等		

＜文型・文末例＞
知及技「～を理解することが**できる**。」
思判表等「～考察し、～表現することが**できる**。」
学び等「～を主体的に追究（追求）**しようとする**。」

2　評価規準

知識・技能	・
思考・判断・表現	・
主体的に学習に取り組む態度	・

＜文末例＞
知・技、思判表「～**している**。」
主体態「～**しようとしている**。」

3　指導及び評価、ICT 活用の計画（全○時間：本時第○時）　※指導に生かす評価○　評定に用いる評価●

時	学習活動		知	思	態
1	・～～～

【ねらい】
・「**学習活動＋本時に身に付けさせたい資質・能力**」とし、**教師の立場**で、具体的かつ簡潔に記述する。
・どの単位時間でも同じ記述にならないように、単元における本時の位置付けを明確にする。
・参観者の視点を踏まえ、「ねらい」を見ただけで、授業の主たる学習活動や目標がイメージできるように記述する。（授業の視点となる）

【めあて】
・「ねらい」を達成するために「**何を**」「**どのように**」**学ぶのか**など、学習の見通しが明確に意識できる**児童生徒向け**の言葉を記述する。※「はばプラⅡ」参照

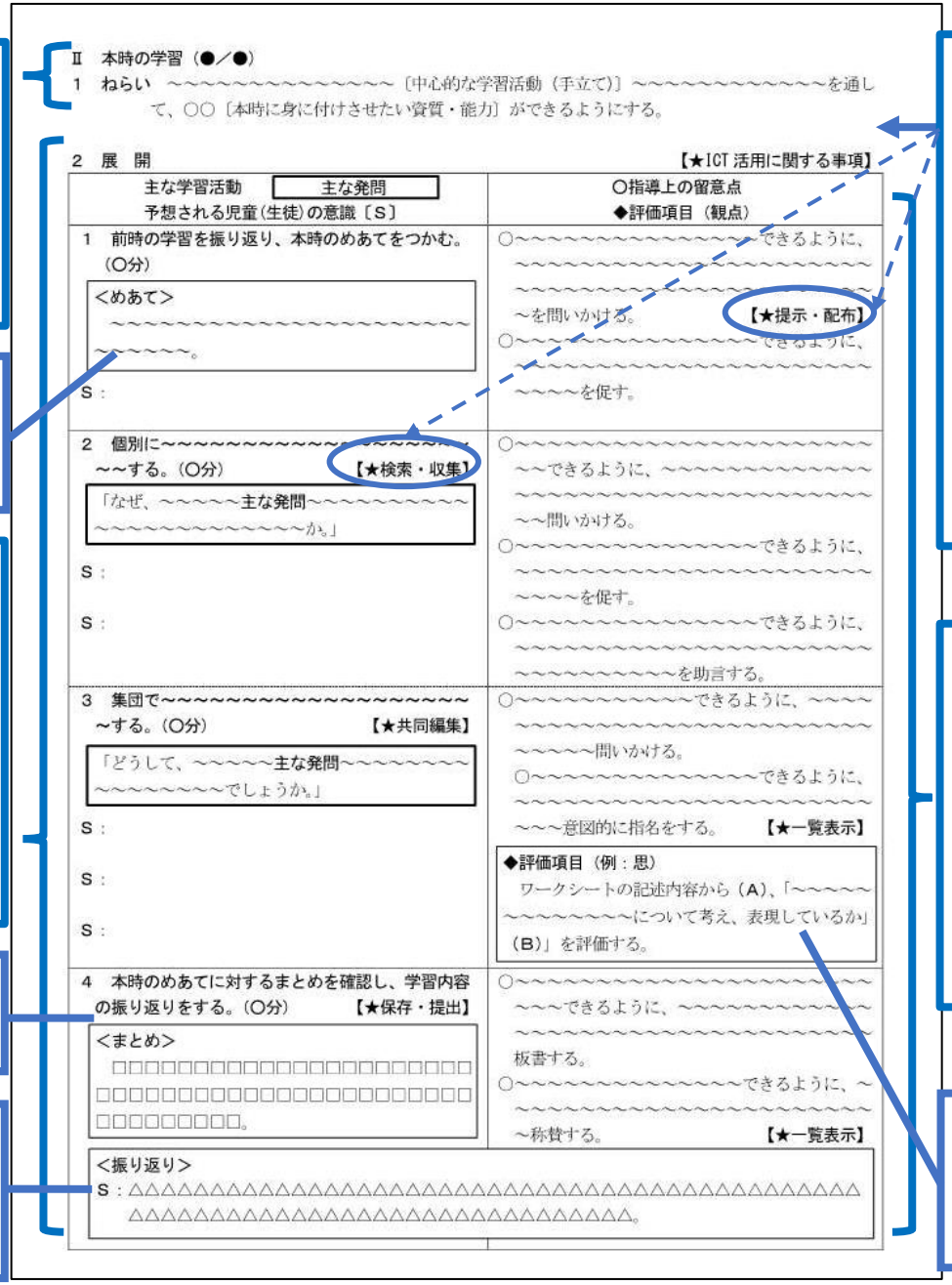
【主な学習活動】
・番号を付け、**児童生徒の立場**で、具体的かつ簡潔に記述し、時間は大まかに（○分）で示す。
・「導入」「展開」「終末」の区切りは実線罫線、「展開」を細分化する場合は、点線罫線とする。

【児童（生徒）の意識】
・児童生徒の意識を「Ｓ」として記述する。
・本時の「**ねらい**」**の到達に向かって、一人の児童生徒を想定し、意識が変容していく様子を表現**する。
・教師の主な発問については、右例のような実線四角を主な学習活動の枠中に示す。

【まとめ】
・「**めあて**」**に正対する答えや内容**となるよう意識し、身に付けさせたい資質・能力とつながるものとする。

【振り返り】
・本時の学習の取組全体を見返し、自分が学習したことについての理解度や変容したこと、学習したことと他の学習や生活などとの関連付け、次時への見通しなど、振り返りの視点を踏まえ、記述する。

※「まとめ」や「振り返り」については、各教科等の特質により位置付けや内容、関係性が異なるため、工夫して示す。


Ⅱ　本時の学習（●／●）
1　ねらい　～～～